

岩手県野田村の交流活動報告（2017年7月29日）

今回の交流活動は、毎月開催されている「野田村プチよ市」に参加させていただきました。



今回参加して下さった皆さん（道の駅おりつめにて）

いつもよりも少し遅い時間の11時過ぎに弘前を後にして、野田村を目指しました。今回の参加者は、市民18名、学生12名、教員1名の計31名でした。バスは順調に進み、道の駅おりつめで集合写真を撮って、14時20分頃野田村役場前に着きました。そこから、「野田村プチよ市」が始まる15時を目指して準備を進めます。今回は、いつものコミュニティカフェではなく、主として子どもたちを対象にした棒パン作りとプレイパークを行いました。



「野田村プチよ市」会場

プレイパークは、設置が終わるか終わらないかのうちに子どもたちが集まってきて大騒ぎになりました。主に学生が担当してくれたのですが、元気のいい子どもたちに大分息を切らせていました。最後の最後まで残って遊んでくれていた子どもたちもいました。帰りのバスの中の感想でも、「子ども元気で、元気もらった」「何より子どもたちが元気だった」「子どもたちと遊んで疲れた後のビール美味しかった」「元気な子供たちと遊んだので、気持ちよく寝られそう」という声が数多く聞かれました。



プレイパークの様子

棒パン作りは、生地作り班と炭を熾す班に分かれ、それぞれで準備を進めました。生地が出来上がったところで、子どもたちに声をかけて棒に生地を巻き付け、じっくり焼くという作業を一緒にやりました。子どもたちは、喜んで自分で焼いたものを食べていました。野田村の皆さんの協力もあって、絶えず子どもたちが来てくれ、盛況のうちに生地がなくなりました。棒パンの生地作りに参加した方は、「棒パンの生地は、愛情込めて作った」と仰っていましたが、「その愛情が隠し味で美味しかったんだと合点がいった」という感想もありました。



棒パン作りの様子

「野田村プチよ市」では、何件か地元の飲食店や手作り雑貨のお店が出店し、ベアレンビールの販売も行われていたので、参加者の皆さんは、それぞれ交代しながら食事やビールを楽しみました。また、松本哲也さんのミニライブも行われていたので、野田村の皆さんと一緒にライブで盛り上がりもしていました。帰りのバスでも、「今日はボランティアというより楽しい一日だった」「あつという間の時間だった。楽しく酔えた。今日はボランティアより楽しめた」「ボランティアと言うより自分が楽しんだ一日だった」という感想が聞かれました。

17 時頃には棒パンが売り切れ、30 分頃にはプレイパークも撤収し、最後に買い物などを楽しんでから 18 時頃野田村を後にしました。

帰りは、いつもと勝手が違い、野田村の道の駅ばあぶるもすでに閉まっていた、ほとんどお土産などを買えないまま弘前に戻ってきました。「野田塩ソフトを楽しみにしていたのに残念だった」という声もありましたが、今回は活動時間がいつもと違っていたので、参加者の皆さんにはご理解をいただきました。帰りは若干遅くなり、21 時 30 分頃に弘前大学に到着しました。

何回目かの参加者からは、「野田村見事に立ち直った姿が見れてよかった。機会があれば続けていきたい」という感想が聞かれ、「初めての野田村だったが、見れば普通の新興住宅地と何にも変わらなかった。鳥居の傷を見て改めて実感した」という声も聞かれました。これらの感想を聞いても、野田村も徐々に落ち着いてきているのかなという印象を持ちました。一方で、「今日のイベントに高齢者の姿がほとんどなかった。それが、心配だ」という声や「海が見えなくてさみしく思った。野田村の人たちはどう思っているんだろう」という感想も聞かれました。

後片付けをしながら、ふと会場を見渡した時、松本さんのライブを聞きながら、野田村の人たちとボランティアセンターのビブスを着た人たちが一緒になって、ビールを飲んだり、食事をしたりしている姿が目の前にありました。野田村の皆さんと学生も含めた弘前市の皆さんが混ざり合っ一緒に楽しい時を過ごすことができるというのが、交流活動を続けてきた成果だと感じましたし、今後もこれを継続していきたいと思いました。

(担当 平野 潔)